

第37回黒部川土砂管理協議会 議事録

●開催要件

○開催日時 平成27年2月25日(水) 9:30~11:15

○会場 黒部市於、「黒部市中央公民館」

○出席者

- | | |
|------------------|---------------------------|
| ・澤田 悦郎 黒部市都市建設部長 | ・熊谷 和哉 富山県 生活環境文化部次長 |
| ・笹島 春人 入善町長 | ・山本 公正 富山県農林水産部次長 |
| ・笹原 靖直 朝日町長 | ・南保 仁士 富山県土木部河川課長 |
| ・山田 茂樹 富山森林管理署長 | ・吉津 洋一 関西電力(株)北陸支社長 |
| 総括治山技術官 | ・入江 靖 北陸地方整備局河川部長
(座長) |

事務局 北陸地方整備局河川部、関西電力(株)北陸支社

●議 事

- (1)平成26年度連携排砂の実施経過について
- (2)平成26年度連携排砂に伴う環境調査結果について
- (3)第42回黒部川ダム排砂評価委員会開催結果について
- (4)平成26年度連携排砂の実施結果に関する関係団体からの意見について

●協議会の結果

- ・平成26年度に実施された連携排砂の実施経過及び連携排砂に伴う環境調査結果について了承する。
- ・宇奈月ダムの上流に堆積している大きめの礫を放流する計画について、誤解を招かないよう正確な情報の提供をすること
- ・協議会での意見及び第42回黒部川ダム排砂評価委員会の意見を踏まえて、平成27年度連携排砂計画及び環境調査計画を策定し、次回の協議会に提示すること。

(1) 平成26年度連携排砂の実施経過について

座 長

ただいまの議題1の報告につきまして、質問、意見ありましたらお願いします。

[質疑なし]

よろしいでしょうか。

では、次の議題に移らせていただきます。

(2) 平成26年度連携排砂に伴う環境調査結果について

(3) 第42回黒部川ダム排砂評価委員会の報告について

座長

では、議題2の平成26年度連携排砂に伴う環境調査結果について、議題3の第42回黒部川ダム排砂評価委員会の報告について、この2つの報告につきまして意見、質問がありましたらお願いいたします。

A委員

2点お聞かせいただきたいと思いますが、評価委員会の結果についてでございますけれども、河川の方の宇奈月ダム直下のSSの数値が上回ったという結果であります。今後どのように検討をされていくのかということが1点と次のページの方に、過去の測定範囲を外れる値があったと。外れるというのはどういった意味なのか、少しご説明いただければと思います。

座長

では、事務局から回答をお願いします。

事務局

まず第1点目、宇奈月ダム直下でSSのピーク値が高い値を示したということでございますが、資料-2-①の50ページ、最後のページです。ここで今回の事象の原因につきまして過去のデータなどを用いて分析をしております。やはり自然流下に移行する直前の貯水位の水位低下速度、これについて十分配慮しなければいけないというようなことがここからわかってまいります。

図-4ですけれども、今回の赤いひし形の点が非常に、過去の連携排砂、通砂と比べても水位低下速度が非常に大きかったということが一つ反省点、課題として上げられますので、この点に十分注意しながらダムの操作の仕方というものを整理、検討していきたいと思っております。

それから、2点目ですけれども、過去の測定の観測値を外れるものがあったということですが、これまで過去からいろいろ環境調査を行ってきたわけでございます。その中で過去のデータの観測した環境調査結果として最大値、最小値それから平均値というものをお示しするに当たって、今回のデータと比較する対象としてお示しをしているわけでございます。

例えば資料－２－①の３ページでございますが、どのグラフも同じなのですが、縦の棒線に三角印と四角印がありまして、これが過去に計測された中の、三角印が最大の値、四角印が最小の値で横に小さい棒線がありますけれども、これが平均をとったときの値でございます。それに対して今回の値がどの位置になるかということを示しているわけですが、過去計測した最大値、最小値の範囲内から外れた値が今回観測された場合、先ほどA委員がおっしゃったような過去の測定値から外れる場合があったという表現を使っております。

この最大値、最小値は実際に観測されたものを示しているわけですがけれども、一体それがどういう意味を持つのかということの評価委員会からも課題を投げかけられております。それが資料－３の３ページの最後のところです。「既往観測値の変動幅については、考え方を整理すること。」と。今、最大値と最小値だけを見ておりますけれども、もう少し考え方を整理する必要があるのではないかというご示唆をいただいておりますので、これにつきましても少し検討を加えていきたいと思っておりますのでございます。

座 長

よろしいでしょうか。

A委員

はい。

座 長

他にありましたらお願いします。

B委員

評価委員会評価の３ページの方にあります水生生物調査の中で、中段にあります「植物プランクトンの生物相の変化が見受けられていることから、原因等の調査が必要である。」、当然あるということですから調査をされるということだと思っております。プランクトンが出た場合、漁業の質も非常にかかわりがあると思う中で、現段階ではどういった調査、どういった現象が考えられるのか、現段階であればお聞かせ願いたいと思っております。

座 長

事務局から回答をお願いします。

事務局

まず、今のご指摘につきましては、資料－２－①４２ページの下の方に棒グラフがありますけれども、山彦橋、下黒部橋ともに、特に９月調査、１１月調査において平成２２年から珪藻類から藍藻類の出現が多くなってきております。

このことについてこういった要因が考えられるのか、小まめに現場で調査していただけないですかというご指摘を受けている中で、９月、１１月と、その前の５月調査では調査間隔が開いているのですが、私ども今考えておりますのは、測定間隔を詰めまして、成長、それから剥離、そういった過程を流量とか水温とかの関係を絡めながらどう変化していくか、それから種類数、珪藻類から藍藻類にかわるタイミングとかを細かくデータとして取得していこうと。それによって、その変化を見て変化する要因になるものを考察を加えて原因等をより深く検討していきたい。まずは調査の間隔を狭めて原因を究明したいという方向性で考えております。

B委員

ということは、この報告書にあります形でいきますと、海域での植物プランクトンの変化があるけれども、漁業、魚等の生物に関しては大きな変化はないという範囲という捉え方でよろしいですか。

そういった流れは、この報告の中では想定の中の範囲で、大きな影響はないという捉え方をしているということでもよろしいですね。

座長

回答をお願いします。

事務局

今のところそういうことをございまして、いろいろ細かく見ていくと植物プランクトンですとか付着藻類ですとか、そういったところの変化はあるのですが、魚類まで本当に変化がないというところまでの話にはなっていないのですが、こういった細かい変化があるということについて原因をしっかりと調べなさいと、そういう評価をいただいていると理解しております。

座長

よろしいでしょうか。

B委員

はい。

座長

ありがとうございました。

他にありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

[質疑なし]

(4) 平成26年度連携排砂の実施結果に関する関係団体からの意見について

座 長

関係団体として、海面漁業関係団体、内水面漁場関係団体、農業関係団体のそれぞれの団体から意見をいただきまして、それに対する行政としての対応案を紹介させていただきました。

ただいまの報告につきまして質問、ご意見ありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

では、これまで1、2、3、4の議題につきまして質問、意見ありましたらお願いします。

これまでに議事の(1)から(4)までの報告がありましたので、ここでまとめさせていただきます。

まず、議題の1につきましては、平成26年度の連携排砂の実施経過につきまして、目標排砂量32万 m^3 に対して実績排砂量が32万 m^3 の排砂となったという報告がありました。

議題2につきましては、平成26年度連携排砂に伴う環境調査結果につきまして報告があり、海域の底質の一部地点でCOD、硫化物などの既往最大値が発生したこと、それから宇奈月ダム直下のSS値について既往最大値が発生したことの報告がありました。また、今回から取り組みました出し平ダムのSSピークの低減策についてある程度の効果があったという報告がありました。それから、宇奈月ダム直下のSS値が既往最大だったことについて、要因の分析の報告もありました。

議論の中で、宇奈月ダムのそのSS値のピーク低減策をどうするのかという質問がありまして、事務局のほうから低下速度を遅くすることによって改善したい旨の報告がありました。

議題3についてですが、第42回黒部川ダム排砂評価委員会からは、一時的な環境の変化はあるものの、大きな影響を及ぼしたとは考えられないという評価をいただいております。ただし、幾つかの項目につきましては、引き続き注視することや調査、検討することが必要であるという評価をいただいておりますという報告がありました。

今日の意見交換の中では、付着藻類や植物プランクトンなどの生物相の変化について

てどういう調査を行うかという質問などがあり、事務局からこういう調査、例えば期間を短くしたいという報告がありました。

議題4につきましては、平成26年度連携排砂の実施結果に関する関係団体からの意見についての報告、それからそれに対する連携機関排砂実施者の対応方針の説明がありました。

以上がまとめでございます。

本日の協議会では、平成26年度の連携排砂に関しましてたくさんのご意見を賜り、ありがとうございました。これらの意見及び1月29日に開催されました第42回黒部川ダム排砂評価委員会の意見を踏まえまして、事務局において平成27年度の連携排砂及び環境調査計画を策定し、次回の協議会に提示していただくようお願いいたします。

まとめを終わります。

(5) その他

座 長

では、議事の5番、その他につきまして、事務局から何かありましたらお願いいたします。

事務局

事務局からは特にございません。

座 長

委員の皆様から何かありましたらお願いいたします。

A委員（B委員代弁）

宇奈月ダムの上流側にたまっている大き目の礫を放流する計画があると聞いております。誤解を招くようなことのないように正確な情報の提供をお願いしたいということです。

座 長

事務局から何か発言がありましたら。

事務局

今のお話ですけれども、前回の協議会で宇奈月ダムの上流には結構大きな礫がありまして、その大きな礫が宇奈月ダムをなかなか通過していかないという課題をお示しさせていただきました。それで、宇奈月ダムから細かい土砂だけではなくて大きな礫も効果的に移動させるための検討を事務局の方で行っているというお話もさせていただきました。

その第一歩としまして、上流に溜まっている大きな礫がどのように動いていくのかということの試験、調査をやりたいというお話をさせていただいております。それについては、現在引き続き検討しているところでございまして、次回の評価委員会、それから協議会等で検討状況などをお示ししたいと考えております。

試験ですので、連携排砂のときに大き目の礫が宇奈月ダムの堤体をどのように移動していくかということをし少し追いかけてみたいということでございます。決して大規模に土砂を移動させるということではなく、そういった調査データを基にして今後より効果的な排砂方法を提案していけるのではないかなと考えているところでございます。細かな検討状況につきましては、次回お示しさせていただきたいと思っております。

以上でございます。

座 長

では、次回の協議会で報告をお願いします。また、A委員からの意見ですので、別途事務局からA委員の方に説明していただくようお願いします。

他ありますでしょうか。

特になければ、以上で本日の議事を終了いたします。ご協力ありがとうございました。

それでは、司会に進行をお返しいたします。

事務局

委員の皆様には、長時間にわたり熱心なご討議、誠にありがとうございました。

以上をもちまして、第37回黒部川土砂管理協議会を閉会させていただきます。

誠にありがとうございました。